

【様式例】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 職務の理解		授業の種類 ((講義)・演習・実習)		授業担当者 小堀 悦子	
授業の回数 1回	時間数(単位数) 6時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的にイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。					
[授業全体の内容の概要]					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 職務の理解 1 講義 介護職の仕事 介護職の働く場所 2 講義 キャリアパスと介護職員 初任者研修の理解 3 講義 初任者研修の内容 4 講義 施設見学 ココファン東大宮 5 講義 施設見学 ココファン東大宮 6 講義 介護保険制度の目的 介護保険法の理解、サービスの種類等					
[使用テキスト・参考文献] 介護職員初任者研修テキスト第1巻			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 修了評価 70点以上合格		

【様式例】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護における尊厳の保持・自立 支援		授業の種類 ((講義)・演習・実習)		授業担当者 橘 英美子	
授業の回数 2回	時間数(単位数) 9時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 介護職が利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護 予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない 行動例を理解している。					
[授業全体の内容の概要] ① 人権と尊厳を支える介護②自立に向けた介護					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ○介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自 立支援の考え方を取り入れて概説できる。 ○虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者尊厳、プライバシーを傷つ ける介護についての基本なポイントを列挙できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 人権と尊厳を支える介護 1 講義 人権と尊厳の保持 2 講義 ノーマライゼーションの意義 3 講義 人権擁護の基本視点 4 講義 適切なケア 身体拘束の施設介護 5 講義 身体拘束の弊害 6 講義 成年後見制度と日常生活自立支援事業 自立に向けた介護 7 講義 介護の基本視点 8 講義 ノーマライゼーションの施策化 9 講義 介護予防 要介護状態の原因疾患					

<p>[使用テキスト・参考文献] 介護職員初任者研修テキスト第1巻</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 修了評価 70点以上合格</p>
---	--

【様式例】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本		授業の種類 (講義)・演習・実習)		授業担当者 大谷 和子	
授業の回数 1回	時間数(単位数) 6時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>○介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気付き、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。</p> <p>○介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>① 介護職の役割、専門性と他職種との連携②介護職の職業倫理③介護における安全の確保とリスクマネジメント④介護職の安全</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>○介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。</p> <p>○介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療、看護との連携の必要性について列挙できる。</p> <p>○介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等とかかわる際の留意点について、ポイントを列挙できる。</p> <p>○生活支援の場では会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。</p> <p>○介護職がおこりやすい健康障害やストレス、またそれらに対する健康障害や受けやすいストレス、ストレスマネジメントの在り方、留意点等を列挙できる。</p> <p>○介護職が実施できる医療的ケアと実施できない医行為列挙できる。</p>					

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

介護の基本

- 1 講義 介護環境の特徴の理解
- 2 講義 介護の専門性
- 3 講義 介護にかかわる職種
- 4 講義 介護職の職業倫理
- 5 講義 介護における安全確保
- 6 講義 感染対策のための基本的知識

[使用テキスト・参考文献]

介護職員初任者研修テキスト第1巻

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

修了評価 70点以上合格

【様式例】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護保険制度/障害者自立支援制度およびその他の制度 医療の連携とリハビリテーション		授業の種類 ((講義) ・ 演習 ・ 実習)		授業担当者 櫻井 邦夫 阿部 裕一	
授業の回数 2回	時間数(単位数) 12時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。					
[授業全体の内容の概要] ① 介護保険制度②医療との連携とリハビリテーション③障害者自立支援制度とその他制度					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ○ 生活全体の支援の中で介護保険制度の位置付けを理解し各サービスや地域支援の役割について列挙できる。 ○ 介護保険制度や障害者自立支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。例：税が財源の半分であること、利用者負担割合 ○ ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の慣れについて列挙できる。 ○ 高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。 ○ 医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行う医行為などについて列挙できる。					

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

介護保険制度

- 1 講義 介護保険制度創設の背景、目的、動向
- 2 講義 介護保険制度の仕組み
- 3 講義 介護保険制度関係団体の機能、役割、財源

障害者自立支援制度およびその他の制度

- 4 講義 障害者福祉制度の理念
- 5 講義 障害者自立支援制度の概要
- 6 講義 権利の擁護

医療との連携とリハビリテーション

- 7 講義 リハビリテーションとは
- 8 講義 ICFモデル作成
- 9 講義 急性期～維持期
- 10 講義 自立支援とリハビリテーション
- 11 講義 医療と介護の連携
- 12 講義 医行為と非医行為

[使用テキスト・参考文献]

介護職員実務者研修テキスト第1巻

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)
修了評価

70点以上合格

【様式例】

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護におけるコミュニケーション技術		授業の種類 ((講義)・演習・実習)		授業担当者 渡邊 香代子	
授業の回数 1回	時間数(単位数) 6時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションをとることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解している。					
[授業全体の内容の概要] ① 介護におけるコミュニケーション ② 介護におけるチームのコミュニケーション [授業修了時の達成課題(到達目標)] ○利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。 ○チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職1人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 介護におけるコミュニケーション技術 1 講義 介護におけるコミュニケーションの技法 2 講義 利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技術の実際 3 講義 利用者の状況、状態に応じたコミュニケーション技術の実際 4 講義 利用者、家族とのコミュニケーションの実際 5 講義 観察、記録、情報伝達 6 講義 コミュニケーションを促す環境					
[使用テキスト・参考文献] 介護職員初任者研修テキスト第2巻			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 修了評価 70点以上合格		

【様式例】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 老化の理解		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 北沢 敏子	
授業の回数 1回	時間数(単位数) 6時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事柄を理解している。					
[授業全体の内容の概要] ① 老化に伴うところとからだの変化と日常②高齢者と健康					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ○ 加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。 例：退職による社会的立場の喪失感、運動機能の低下による無力感や羞恥心、感覚機能の低下によるストレスや疎外感、知的機能の低下による意欲の低下等					
○ 高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。例：脳梗塞の場合、突発的に症状が起こり、急速に意識障害、片麻痺、半側感覚障害等を生じる等					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 老化の理解					
1 講義 老化と加齢について 2 講義 記憶、生活、知能の老化 3 講義 人体の構成 4 講義 消化器系、感覚、皮膚 高齢者の嫉妬 5 演習 疾病の理解、生活留意点 循環系 呼吸器系 6 講義 脳血管 運動器 腎臓泌尿器 皮膚の疾病					
[使用テキスト・参考文献] 介護職員初任者研修テキスト第4巻			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 修了評価 70点以上合格		

【様式例】

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 認知症の理解		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 北沢 敏子
授業の回数 1回	時間数(単位数) 6時間	配当学年・時期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>① 認知症を取り巻く状況②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活④家族への支援</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。 ○ 健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害について列挙できる。 ○ 認知症の中核症状と行動・心理状況 (BPSD) 等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。 ○ 認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴についても列挙できる。 ○ 認知症の利用者の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。 ○ 認知症の利用者生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。例：生活習慣や生活様式の継続、なじみの人間関係やなじみの空間、プライバシーの確保と団らんの場の確保等、地域を含めて生活環境とすること ○ 認知症の利用者とのコミュニケーション (言語、非言語) の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方 (良い関わり方、悪い関わり方) を概要できる。 ○ 家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて列挙できる。 				

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

認知症の理解

- 1 講義 認知症とは、概念を聞く
- 2 講義 医学的側面から考える、診断、種類について
- 3 講義 認知症の原因疾患
- 4 講義 心理行動の特徴
- 5 講義 利用者への対応
- 6 講義 家族介護の現状

[使用テキスト・参考文献]

介護職員初任者研修テキスト第2巻

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)
修了評価 70点以上合格

【様式例】

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害の理解		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 塩満 和子	
授業の回数 1回	時間数(単位数) 6時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。 [授業全体の内容の概要] ①障害の基礎的理解②障害の医学的側面、生活障害、心理、行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 [授業修了時の達成課題（到達目標）] ○介護において障害の概念とICFを理解しておくことの必要性の理解を促す。 ○高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 障害の基礎的理解 1 講義 障害の基礎的理解 2 講義 身体障害 3 講義 身体障害 4 講義 知的障害 5 講義 精神障害 難病 6 講義 家族の心理 かかわり支援の理解					
[使用テキスト・参考文献] 介護職員初任者研修テキスト第2巻			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 修了評価 70点以上合格		

【様式例】

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ところとからだのしくみと生活支援技術		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 橘 英美子 鶴岡 典江 北沢 敏子 根岸 美代子 武田 啓子 照井 由紀子 西村 洋子 田口 郁子 大島 八重子 野口 美佐子 高須賀 俊輝 石井 知美 塩満 和子 小堀 悦子	
授業の回数 16回	時間数(単位数) 92時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 [授業全体の内容の概要] ①基礎知識の学習②生活支援技術の講義・演習③生活支援技術演習 [授業修了時の達成課題 (到達目標)] ○ 介護実践に必要なところとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるよう促す。 ○ サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。 ○ 例えば「食事の介護技術」は「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるよう促す。さらに、その利用者が満足する食事が提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様にする。「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。					

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

介護の基本的な考え方

- 1 講義 ICFの視点に基づく生活支援
- 2 講義 重度化防止の視点
- 3 講義 予防を重視する背景

介護に関するこころのしくみの基礎的理解

- 4 講義 高齢者の心理
- 5 講義 高齢期のパーソナリティと適応
- 6 講義 自己実現と生きがいづくり
- 7 講義 マズローの要求の5段階と生きがい
- 8 講義 生きがいづくり支援
- 9 講義 介護職のはたらきかけ言葉かけ

介護に関するからだのしくみの基礎的理解

- 10 講義 人間の体について
- 11 講義 骨、関節、筋肉について
- 12 講義 運動動作、基本動作、日常生活の動き
- 13 講義 ボディメカニクスの7原則について
- 14 講義 良い姿勢と良肢位について
- 15 講義 神経と体の動き

快適な住居環境と介護

- 16 講義 住宅の役割と機能
- 17 講義 高齢者・障害者にとって快適な住まい
- 18 講義 福祉用具の活用
- 19 演習 特殊寝台等、起居関連用具の使用法
- 20 演習 車イスの使用法
- 21 演習 特定福祉用具等

生活と家事

- 22 講義 家事と生活の理解
- 23 講義 生活支援 調理について
- 24 講義 生活支援 掃除 洗濯について
- 25 演習 調理 おかゆ作り
- 26 演習 調理 野菜切り
- 27 演習 裁縫 雑巾縫い

移動に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 I

- 28 演習 ボディメカニクス
- 29 演習 移動 移乗①
- 30 演習 移動 移乗②

31演習 移動 移乗③

32演習 移動 移乗④

33演習 移動介助

移動に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護Ⅱ

34演習 車いすでの移動の介護①

35演習 車いすでの移動の介護②

36演習 視覚障害者の歩行の介助①

37演習 視覚障害者の歩行の介助②

38演習 移乗の介護①

39演習 移乗の介護②

食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護

40演習 食事①

41演習 食事②

42演習 食事③

43演習 食事④

44演習 口腔ケア①

45演習 口腔ケア②

入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護

46演習 清拭①

45演習 清拭②

48演習 清拭③

49演習 入浴①

50演習 入浴②

51演習 入浴③

整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護

52演習 衣服着脱①

53演習 衣服着脱②

54演習 衣服着脱③

55演習 衣服着脱④

56演習 衣服着脱⑤

57演習 衣服着脱⑥

排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護

58演習 排泄に関する基礎知識①

59演習 排泄に関する基礎知識②

60演習 排泄に関する基礎知識③

61演習 排泄に関する基礎知識④

62演習 排泄に関する基礎知識⑤

63演習 排泄に関する基礎知識⑥

睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護

- 64演習 睡眠に関する基礎知識①
- 65演習 睡眠に関する基礎知識②
- 66演習 睡眠に関する基礎知識③
- 67演習 ベッドメイキング①
- 68演習 ベッドメイキング②
- 69演習 ベッドメイキング③

死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護

- 70演習 終末期に関する基礎知識
- 71演習 終末期ケア①
- 72演習 終末期ケア②
- 73演習 看取りの介護①
- 74演習 看取りの介護②

介護課程の基礎理解

- 75講義 介護課程の意義
- 76講義 ICFの理解
- 77講義 記録の目的と機能
- 78講義 チームアプローチの必要性
- 79講義 事例演習①
- 80講義 事例演習②

総合生活支援技術演習Ⅰ

- 81講義 事例の概要と生活状況
- 82講義 状態像の把握①
- 83講義 状態像の把握②
- 84演習 グループワーク 発表
- 85演習 必要と考えられる生活支援とその理由 グループワーク
- 86演習 発表

総合生活支援技術演習Ⅱ

- 87講義 状態像と生活支援の演習シートの記入方法の説明と事例について
- 88演習 グループワーク①
- 89演習 グループワーク②
- 90演習 グループワーク③
- 91演習 発表
- 92演習 演習 献立を作成する

[使用テキスト・参考文献]

介護職員初任者研修テキスト第3巻

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

修了評価 70点以上合格

【様式例】

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) その他		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 高橋 浩司 神崎 貴臣 高田 勢也 大島 八重子 野口 美沙子 西村 洋子 田口 郁子 武田 啓子 鶴岡 典江 高須賀 俊輝 照井 由紀子	
授業の回数 32回	時間数(単位数) 183時間	配当学年・時期		必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>単に資格を取得するだけでなく、就職に役立つことをねらいとする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ マナー マナー接遇 ビジネスマナー ○ ビジネススキル 表現 コミュニケーション ビジネススキル ○ 職場見学 ○ 実技試験 基本介護技術(①入浴・清潔②移動③食事④整容⑤排せつ⑥睡眠)を試験する。 ○ 実習 未経験者のための体験実習 オリエンテーション ○ 看護助手 ○ 介護事務管理士受験対策 ○ 就職支援 ジョブ・カードの作成 学卒就職支援 <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 接遇 ビジネスマナーを修得する。 ○ 実技試験70点以上合格を目指す。 ○ 現場および職場を体験する。 ○ 面談を通じて志望を定め、ジョブ・カードを完成する。 ○ 看護助手 介護事務管理士受験合格を目指す。 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>入校式</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 入校式 2 オリエンテーション ジョブカードの説明 <p>ビジネスマナー</p> <ul style="list-style-type: none"> 3 講義 ビジネスマナー① 4 講義 ビジネスマナー② 					

- 5 講義 ビジネスマナー③
- 6 講義 ビジネスマナー④
- 7 講義 ビジネスマナー⑤
- 8 講義 ビジネスマナー⑥

表現力の向上

- 9 講義 表現力の向上①
- 10 講義 表現力の向上②
- 11 講義 表現力の向上③
- 12 講義 表現力の向上④
- 13 講義 表現力の向上⑤
- 14 講義 表現力の向上⑥

コミュニケーションスキル I

- 15 講義 コミュニケーションスキル I ①
- 16 講義 コミュニケーションスキル I ②
- 17 講義 コミュニケーションスキル I ③
- 18 講義 コミュニケーションスキル I ④
- 19 講義 コミュニケーションスキル I ⑤
- 20 講義 コミュニケーションスキル I ⑥

コミュニケーションスキル II

- 21 講義 コミュニケーションスキル II ①
- 22 講義 コミュニケーションスキル II ②
- 23 講義 コミュニケーションスキル II ③
- 24 講義 コミュニケーションスキル II ④
- 25 講義 コミュニケーションスキル II ⑤
- 26 講義 コミュニケーションスキル II ⑥

学卒就職支援

- 27 講義 学卒就職支援①
- 28 講義 学卒就職支援②
- 29 講義 学卒就職支援③
- 30 講義 学卒就職支援④
- 31 講義 学卒就職支援⑤
- 32 講義 学卒就職支援⑥
- 33 講義 学卒就職支援①
- 32 講義 学卒就職支援②
- 33 講義 学卒就職支援③
- 34 講義 学卒就職支援④
- 35 講義 学卒就職支援⑤
- 36 講義 学卒就職支援⑥

職業研究Ⅰ

- 37演習 職場見学①
- 38演習 職場見学②
- 39演習 職場見学③
- 40演習 職場見学④
- 41演習 職場見学⑤
- 42演習 職場見学⑥

職業研究Ⅱ

- 43講義 職業研究①
- 44講義 職業研究②
- 43講義 職業研究③
- 44講義 職業研究④
- 45講義 職業研究⑤
- 46講義 職業研究⑥

ビジネススキルの基礎Ⅰ

- 47講義 ビジネススキルの基礎Ⅰ①
- 48講義 ビジネススキルの基礎Ⅰ②
- 49講義 ビジネススキルの基礎Ⅰ③
- 50講義 ビジネススキルの基礎Ⅰ④
- 51講義 ビジネススキルの基礎Ⅰ⑤
- 52講義 ビジネススキルの基礎Ⅰ⑥

ビジネススキルの基礎Ⅱ

- 53講義 ビジネススキルの基礎Ⅱ①
- 54講義 ビジネススキルの基礎Ⅱ②
- 55講義 ビジネススキルの基礎Ⅱ③
- 54講義 ビジネススキルの基礎Ⅱ④
- 55講義 ビジネススキルの基礎Ⅱ⑤
- 56講義 ビジネススキルの基礎Ⅱ⑥

実技試験

- 57演習 入浴、清潔テスト①デモ
- 58演習 入浴、清潔テスト②デモ
- 59演習 入浴、清潔テスト③デモ
- 60演習 入浴、清潔テスト④本試験
- 61演習 入浴、清潔テスト⑤本試験
- 62演習 入浴、清潔テスト⑥本試験
- 63演習 移動テスト①デモ
- 64演習 移動テスト②デモ
- 65演習 移動テスト③デモ

- 66演習 移動テスト④本試験
67演習 移動テスト⑤本試験
68演習 移動テスト⑥本試験
69演習 食事テスト①デモ
70演習 食事テスト②デモ
71演習 食事テスト③デモ
72演習 食事テスト④本試験
73演習 食事テスト⑤本試験
74演習 食事テスト⑥本試験
75演習 整容テスト①デモ
76演習 整容テスト②デモ
77演習 整容テスト③デモ
78演習 整容テスト④本試験
79演習 整容テスト⑤本試験
80演習 整容テスト⑥本試験
81演習 排泄テスト①デモ
82演習 排泄テスト②デモ
83演習 排泄テスト③デモ
84演習 排泄テスト④本試験
85演習 排泄テスト⑤本試験
86演習 排泄テスト⑥本試験
87演習 睡眠テスト①デモ
88演習 睡眠テスト②デモ
89演習 睡眠テスト③デモ
90演習 睡眠テスト④本試験
91演習 睡眠テスト⑤本試験
92演習 睡眠テスト⑥本試験
実習オリエンテーション
93講義 実習オリエンテーション
実習
94実習 施設実習①
95実習 施設実習②
96実習 施設実習③
97実習 施設実習④
98実習 施設実習⑤
100実習 施設実習⑥
101実習 通所介護または訪問介護実習①
102実習 通所介護または訪問介護実習②

- 103実習 通所介護または訪問介護実習③
- 104実習 通所介護または訪問介護実習④
- 105実習 通所介護または訪問介護実習⑤
- 106実習 通所介護または訪問介護実習⑥

看護助手Ⅰ

- 107演習 看護助手①
- 108演習 看護助手②
- 109演習 看護助手③
- 110演習 看護助手④
- 111演習 看護助手⑤
- 112演習 看護助手⑥

看護助手Ⅱ

- 113演習 看護助手①
- 114演習 看護助手②
- 115演習 看護助手③
- 116演習 看護助手④
- 117演習 看護助手⑤
- 118演習 看護助手⑥

看護助手Ⅲ

- 119演習 看護助手①
- 120演習 看護助手②
- 121演習 看護助手③
- 124演習 看護助手④
- 125演習 看護助手⑤
- 126演習 看護助手⑥

看護助手Ⅳ

- 127演習 看護助手①
- 128演習 看護助手②
- 129演習 看護助手③
- 130演習 看護助手④
- 131演習 看護助手⑤
- 132演習 看護助手⑥

看護助手Ⅴ

- 133演習 看護助手①
- 134演習 看護助手②
- 135演習 看護助手③
- 136演習 看護助手④
- 137演習 看護助手⑤

138演習 看護助手⑥

介護事務管理士受験対策

139演習 介護事務受験対策①

140演習 介護事務受験対策②

141演習 介護事務受験対策③

142演習 介護事務受験対策④

143演習 介護事務受験対策⑤

144演習 介護事務受験対策⑥

145演習 介護事務受験対策①

146演習 介護事務受験対策②

147演習 介護事務受験対策③

148演習 介護事務受験対策④

149演習 介護事務受験対策⑤

150演習 介護事務受験対策⑥

151演習 介護事務受験対策①

152演習 介護事務受験対策②

153演習 介護事務受験対策③

修了評価

154演習 修了評価①

155演習 修了評価②

156演習 修了評価③

就職支援

157講義 ジョブ・カードの説明

158演習 面談①

159演習 面談②

160演習 面談③

162演習 面談④

163演習 面談⑤

164演習 面談①

165演習 面談②

166演習 面談③

167演習 面談④

168演習 面談⑤

169演習 面談⑥

170演習 面談①

171演習 面談②

172演習 面談③

173演習 面談④

174演習 面談⑤
175演習 面談⑥
マナー接遇
176演習 マナー接遇①
177演習 マナー接遇②
178演習 マナー接遇③
179演習 マナー接遇④
180演習 マナー接遇⑤
181演習 マナー接遇⑥
修了式
182オリエンテーション
183修了式

[使用テキスト・参考文献]

[単位認定の方法及び基準]

(試験やレポートの評価基準など)

修了評価 70点以上合格

実技試験 70点以上合格